

# 魔法の扉を 開いてみませんか？

～子育てに絵本をどうぞ～



岐阜県図書館

# 魔法の扉を 開いてみませんか？



絵本の表紙は魔法の扉です。

絵本を開くと、お子さんの、生き生きとキラキラ輝く瞳に  
出会える、すてきな時間が始まります。

子どもと絵本と大人がそろえば、いつでもどこでも、  
楽しいひとときを過ごせます。

絵本は、赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも楽しめるものです。  
あなたもお子さんと一緒に絵本を楽しんでみませんか？



絵本の時間を楽しみましょう ..... 2

絵本のリスト「25さいをすぎた絵本」 ..... 5

こんな絵本はいかが？

0～1歳から ..... 6

1～2歳から ..... 8

2～3歳から ..... 10

3～4歳から ..... 12

4～5歳から ..... 16

5～6歳から ..... 18

就学前後から（絵本） ..... 20

就学前後から（よみもの） ..... 22

あなたのまちの図書館 ..... 24

岐阜県の子どもの本に関する取り組み

岐阜県子どもの読書活動推進計画（第四次）について .. 28

岐阜県図書館における子どもの本のサービス ..... 29



絵

## 本の時間を楽しみましょう



### 読み聞かせの大切さ

絵本の読み聞かせがなぜよいのか？

その理由はただ一つ、親子で楽しい時間を過ごすことができるからです。

楽しい時間をたくさん過ごせば、親子の絆はより強く結ばれます。お子さんが成長するにつれ、ともに過ごす時間が少なくなり、ひょっとすると遠く離れたところに行ってしまうかもしれません。けれども、幼い頃に一緒に過ごした思い出が多ければ多いほど、心の距離は近くなります。

そしてまた、親子で過ごした楽しい思い出は、お子さんの心を支える力になります。お子さんの力になる楽しい時間を、いっぱいつくってください。絵本であれば、いつでもどこでも、ほんのわずかな時間でも、楽しい時間をつくることのできるのです。

「読み聞かせをすると頭が良くなる」と聞くから読んでやりたい、という方もいらっしゃるでしょうが、そういったことは絵本の時間を存分に楽しんだからこそついてくる、オマケです。

存分に楽しんでいれば、その楽しい世界を生み出している言葉というものにいつの間にか関心をもつようになります。ご家庭での日頃の会話や絵本の読み聞かせを通して、たくさんの楽しい言葉、おもしろい言葉、あたたかな言葉をお子さんにプレゼントすることで、お子さんは自然と言葉が大好きになるのです。

「これはなんて読むの？」「このお話を聞いてどう思った？」などと、絵本の時間を教育の手段にしたりせず、心から楽しむ時間、親と子が心を通わせる時間にすることが最も大切です。



## 絵本に加えて大切なこと

絵本の楽しい時間は、お子さんの心の糧になります。しかし、お子さんの中に思いやりの心や豊かな感受性を育てるためには、スキンシップや五感を駆使するような体験こそ、より大切なことでしょう。

お子さんを抱きしめたり、「よしよし」と頭をなでたり、「こちょこちょ」とくすぐったり、おんぶやだっこ、肩車をしたり…。日々の生活や遊びの中で、お子さんと肌と肌でふれあうこと、そしてお子さんと一緒に外に出て、太陽の光の下で自然と出会い、自然の美しさや不思議さに共感することこそ、何よりも大切にすべきではないでしょうか。



## 誰でも楽しめる絵本

絵本は赤ちゃんからお年寄りまで、老若男女を問わず誰でも楽しめます。人と人が出会うのと同じように、いつどこで出会うか分かりませんが、出会いがあれば、いつでもかまいません。

「赤ちゃんに絵本なんて早すぎる」と思われるかもしれませんが、確かに絵本などなくても、赤ちゃんに愛情を込めて子守唄を歌ったり、話しかければよいのですが、「赤ちゃんにどんな言葉かけをすればいいのか分からない」というときには、絵本を読んでみましょう。絵本の表紙を開けば、大人は言葉を発せずにはいられません。赤ちゃんは、視力が発達していなくても、お父さん、お母さんの声を安心して聞いています。赤ちゃんの耳に、たくさんの心地よい言葉を届けるために、絵本は大活躍するでしょう。



## 絵本の時間を楽しい時間にするために

では、絵本の読み聞かせをするとき、どんな絵本を読めばよいのかというと、それは、自分が気に入った本やお子さんが気に入った本です。これが、絵本の時間を楽しい時間にする一番のポイントです。次々と新しい絵本を読むよりも、お子さんが何度も「読んで」とせがんで持ってくる、お気に入りの一冊を大切にしてください。

そして丁寧に心を込めて読むことも大切です。ぞんざいに読んでいるとお子さんの気持ちも絵本から離れてしまい、楽しい時間ではなくなります。

また、読み聞かせにはその子にあった時間と場所、適した絵本が必要です。お子さんが嫌がる時は無理に読まず、他の遊びと一緒に楽しみましょう。



## 絵本選びに困ったら図書館へ!

けれども、世の中にはあまりにもたくさんの絵本があり、「お気に入りの一冊」を見つけるのも、なかなか大変なことです。困ったときは、お近くの図書館にお尋ねください。おすすめの本のリストを作るなど、絵本選びに役立つ工夫をしています。

いろいろ借りてみて、お子さんの「お気に入りの一冊」をぜひ見つけてください。

(県内の図書館について、24ページ以降に所在地などを掲載しています)



# 絵

## 本のリスト「25さいをすぎた絵本」

岐阜県図書館でも絵本のリスト「25さいをすぎた絵本～読みつがれている絵本のリスト～」を作っています。

これは「初めて出版されてから25年以上経っていて、今も子どもたちが読んでいる」という基準で選んだ絵本のリストです。これらの本には、いつの時代の子どもたちにも受け入れられる普遍的なおもしろさがあり、子ども達の心の成長を助け続けているのではないかと考えたからです。

「25さい」に込めた思いは二つあります。一つは四半世紀という区切りであること。もう一つは、父となり母となって、自分が子どもの頃読んでおもしろかった本を、今度はわが子と一緒にもう一度楽しめるような時期であるということです。



### こんな絵本はいかが？ おすすめ絵本を紹介します

次のページ以降にご紹介する絵本のほとんどは、「25さいをすぎた絵本」のリストから選びました。

年齢別、タイトル順に紹介していますが、年齢はおおよその目安です。その年齢の子しか楽しめないわけではありません。同じ絵本でも、成長するにつれ、楽しみ方も変化していきます。お子さんの成長を実感するきっかけにもなり、それもまた楽しいものです。

「お気に入りの一冊」を見つける時の参考にしていただければ幸いです。



## んな絵本はいかが？

0~1歳  
から

みるみるうちに成長していく赤ちゃん。お父さん、お母さんが絵本を読み聞かせると心地よさそうです。そのうちに「いないいないばあ」を喜んだり、興味があるものに「あー」とか「うー」と声を出したり、「バイバイ」を真似して手を振ったり。赤ちゃんは絵本をなめたり、かんだり、落としたりするのも大好き。いろいろ試して「本の世界」というものを知っていくようです。

### 『いないいないばあ』

松谷みよ子／文 瀬川康男／絵 童心社 1981年

ずっと昔から愛され伝えられてきた親子の伝承遊び「いないいないばあ」の絵本。にゃあにゃが、いないいない…ばあ。くまちゃんが、いない

ない…ばあ。大好きな動物たちが顔を隠せば子どもたちもその真似を。にっこり笑った顔を見せてくれたら子どもたちも大喜び。日ごろの遊びが絵本のたのしみをより大きくしてくれます。



### 『がたんごとんがたんごとん』

安西水丸／作 福音館書店 1987年

「がたんごとん がたんごとん」と汽車が進むと「のせてくださーい」と、ミルクやコップ、リンゴにバナナ、ネコたちがやって来ます。

「がたんごとん」に合わせて体をゆすったり、少し大きくなると片言で指さしたり、もっと大きくなると「乗れるかなあ」と考えたり、赤ちゃんの頃からいろいろな形で楽しめます。





## 『ぴょーん』

まつおかたつひで／作・絵 ポプラ社 偕成社 2000年

ページをめくるごとに「ぴょーん」と、いろいろな生きものたちが高く飛び跳ねます。だっこの頃はだっこしている大人が「たかいたか

ーい」、大きくなると自分でジャンプしたり、元気よくどこかに飛んでいってしまったり。子どもたちも、絵本の中の生きものと一緒に「ぴょーん」をします。



## 『ピンポーン』

中川ひろたか／文 荒井良二／絵 偕成社 2000年

「ピンポーン」「はーい どちらさまですか」ドアの向こうにはどこか見覚えのあるシルエット。やって来たのはだれかな。ドアを開けると

そこには「おとどけものでーす」とねこの宅配便屋さん。そしてまたピンポーン。今度はだれかな。何を届けてくれたのかな。シルエットの推理と「ピンポーン」の響きがたのしい絵本です。



## 📖 ほかにもこんな絵本があります 📖

『おつきさまこんばんは』 林明子／作 福音館書店 2000年  
(くつつあるけのほんシリーズ。ほかに『きゅつきゅつきゅつ』  
『おててがでたよ』『くつつあるけ』があります)

### 『かおかおどんなかお』

柳原良平／作・絵 こぐま社 1988年

### 『くだもの』『いちご』

平山和子／作 福音館書店 1981年 1989年

1~2歳  
から

少しずつおしゃべりができるようになってくると、絵本の中に出てくる言葉を真似しようとしたり、リズムの良い繰り返しの言葉に合わせて体を動かしたりして楽しむようになります。

## 『きんぎょがにげた』

五味太郎／作 福音館書店 1982年

赤いきんぎょが逃げ出します。「どこににげた?」「こんどはどーこ?」ページをめくるといろいろなところに隠れています。最初はうまく見つけられない子も、「ここにいるよ」と教えると、とても嬉しそうです。何度も読むうちにどこにいるかを覚えてしまい、ページをめくった途端に「ここ!」と指でさして教えてくれるようになります。



## 『ぞうくんのさんぽ』

なかのひろたか／作・絵

なかのまさたか／レタリング 福音館書店 2007年

今日はいい天気。ぞうくんは散歩に出かけます。途中でかばくを背中に乗せて、今度はその上にわにくんを、そのまた上にかめくんを乗せて散歩。けれどとうとう重くなって池の中にどっぼーん。そしてみんな水遊び。子どもたちもいっしょに遊んでいる気持ちになれます。また、明るくデザイン化された絵も魅力的です。



 **ほかにもこんな絵本があります** 

『**おおきなかぶ**』

A・トルストイ／再話 内田莉莎子／訳  
佐藤忠良／画 福音館書店 2007年

『**しろくまちゃんのほっとけーき**』

わかやまけん／絵 森比左志、わだよしおみ／文 こぐま社 1980年  
(こぐまちゃんのシリーズ。ほかに『こぐまちゃんおはよう』『こぐまちゃん  
とぼーる』などがあります)

『**ねないこだれだ**』

せなけいこ／作・絵 福音館書店 1978年  
(いやだいやだの絵本シリーズ。ほかに『いやだいやだ』『もじゃもじゃ』  
『にんじん』があります)

『**のせてのせて**』

松谷みよ子／文 東光寺啓／絵 童心社 1969年  
(松谷みよ子あかちゃんの本シリーズ。ほかに『いいおかお』『あなたはだ  
あれ』『もうねんね』などがあります)

『**ぼくのくれよん**』

長新太／作・絵 講談社 1993年

『**もこもこもこ**』

谷川俊太郎／作 元永定正／絵 文研出版 1977年

読み聞かせ

**Q&A**

☆読み聞かせをしていても次々ページを  
めくってしまい落ち着いて聞きませんが…

小さな子は、はじめはなめたり、かじったり、たたいたりして絵本と出会っていきます。ページをめくることによって、新しい場面が展開していくことに気づくと、ページをめくることに熱中します。気がすむまで楽しませましょう。

2～3歳  
から

少しずつ、ストーリーがある絵本を楽しむようになります。「読んで」と持ってくるのが毎回同じ絵本で、うんざりしてしまうこともあるかもしれませんが、そんな絵本こそ大切にしてください。お子さんの表情や様子を見ながら読むと、同じ絵本でも毎回違う発見があって、面倒ではなくなります。

## 『かばくん』

岸田衞子／作 中谷千代子／絵  
福音館書店 2008年

日曜日の動物園。かばの親子の一日を描いた絵本です。ねぼすけのかばくん

は、かめくんがやって来ると、ようやく起きていっしょに水もぐり。動物を見にきた子どもたちを観察したり、キャベツを食べたり、昼寝をしたり。やがて動物園に夜が来て、かばの親子もおやすみ。ゆっくりした時間の流れがこちよ絵本です。



## 『ちいさなねこ』

石井桃子／作 横内襄<sup>しょう</sup>／絵  
福音館書店 2007年

ちいさな子ねこが、お母さんねこが見ていない間に家を出て、子どもにつかまったり、車にひかれそうになったり、犬に追いかけられたり…。

子ねこの鳴き声を聞きつけたお母さんねこが駆けつけて、無事に家に帰っておっぱいを飲んでいる最後の場面で、子どもたちは何とも幸せそうな、安心した表情を見せます。



 **ほかにもこんな絵本があります** 

『おやすみなさいのほん』

マーガレット・ワイズ・ブラウン／文

ジャン・シャロー／絵 石井桃子／訳 福音館書店 1962年

『せきたんやのくまさん』

フィービ・ウォージントン、セルビ・ウォージントン／作・絵

石井桃子／訳 福音館書店 1987年

(ほかに『パンやのくまさん』『うえきやのくまさん』『ゆうびんやのくまさん』『ぼくじょうのくまさん』があります)

『ちいさなうさこちゃん』

ディック・ブルーナ／文・絵 石井桃子／訳 福音館書店 2010年

(ほかに『うさこちゃんのたんじょうび』『うさこちゃんとどうぶつえん』

『うさこちゃんとうみ』『ゆきのひのうさこちゃん』などがあります)

読み聞かせ

Q&A

☆上の子は本が好きなのに、下の子は本を読まないんですが…

子どもにとっては、本がすべてではないので読むことを無理強いしてはいけません。子どもは一人ひとり、本との出会い方が違います。絵本との出会いがもてるように心がけていくとよいのでは。

☆音声や動画で名作を語っているものがありますが、それを聞かせてもよいですか。

読み聞かせは、親と子どもが肌を触れ合わせて楽しいときを過ごすことが大切なことであり、単に物語を伝えることではありません。また、生の声で語りかけると、読み手の声色や表情なども子どもは読みとり、そういったこと全てが思い出となって心のどこかに残っていくのです。

3~4歳  
から

だんだんと、少し長いお話の絵本も楽しめるようになり、主人公になりきって絵本の世界にひたります。まさに読み聞かせの黄金期。お子さんと一緒に存分にお楽しみください。

## 『アンガスとあひる』

マージョリー・フラック／作・絵  
瀬田貞二／訳 福音館書店 1974年



何でも知りたがりやのこいぬのアンガス。生垣の向こうから聞こえてくる

「ガー、ガー、ゲック、ガー」という音の正体を知りたくて外に出て行くと、そこにはアヒルが。アンガスは大きな声でほえました。逆にアヒルに追いかけて家に逃げ帰りました。好奇心にあふれた子どもの気持ちがうまく表現されています。

## 『くまのコールテンくん』

ドン・フリーマン／作 松岡享子／訳  
偕成社 1990年



コールテンくんは、デパートで売られている小さなくまのぬいぐるみ。ある日、一人の女の子に気に入られますが、コールテンくんのズボンのボタンが取れていて、その子のお母さんには気に入ってもらえませんでした。そこでその夜、ボタンを探しに、コールテンくんはデパート中を歩き回り…、コールテンくんと一緒に子どもたちも夜の冒険に出かけます。

## 『こすずめのぼうけん』

ルース・エインズワース／作 堀内誠一／画  
石井桃子／訳 福音館書店 1977年

飛ぶのを覚えたばかりのこすずめは、お母さんの言うことをきかずに遠くまで飛んでいってしまいます。疲れて休む場所を探しますが、見つけた鳥の巣では、他の鳥から「なかまじゃないから」と断られてばかり。疲れ果てて歩いていると、ようやくお母さんに会えました。子どもの好奇心とお母さんのやさしさがよく伝わってきます。



## 『おおかみと七ひきのこやぎ』

グリム童話 フェリクス・ホフマン／絵  
瀬田貞二／訳 福音館書店 1967年

この有名なグリムの昔話をお子さんと楽しむなら、この絵本がおすすめです。スイスの絵本作家ホフマンが忠実に再話し、構成にも工夫をこらしています。こやぎたちとおおかみのやりとりにもドキドキし、そして最後のページでほっと安堵のため息をつき…、子どもたちはこやぎになりきって楽しめます。



読み聞かせ

Q&A

☆昔話はいろいろな結末の本がありますが、残酷な結末はどうしたらよいですか

大人が残酷だと思う場面でも、子どもの本の描き方は実物とはかけ離れていて、子どもにとって残酷にはなりません。また昔話は「むかしむかしあるところに」から始まることで聞き手に「これは作り話だから気楽に聞こう」と思わせ、「～だったそうなの」というまた聞きであることを表す言葉をつけることで「これは自分が確かめたわけではないから信じてはいけない」「おもしろければそれでいい」と思わせ、「どんとはらい」「これでおしまい」で終わることで「作り話はもうおしまい」と思わせませぬ。昔話の本はもともとの昔話に忠実なものを選びましょう。

 ほかにこんな絵本があります 

『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』

バージニア・リー・バートン／文・絵 村岡花子／訳  
福音館書店 1961年

『おだんごぱん』

ロシア民話 瀬田貞二／訳 脇田和／絵 福音館書店 1980年

『ガンピーさんのふなあそび』

ジョン・バーニンガム／作 光吉夏弥／訳 ほるぷ出版 2020年  
（『ガンピーさんのドライブ』もあります）

『きかんしゃやえもん』

阿川弘之／文 岡部冬彦／絵 岩波書店 1959年

『ぐりとぐら』

中川李枝子／作 大村百合子／絵 福音館書店 2007年  
（『ぐりとぐらのかいすいよく』『ぐりとぐらのおきゃくさま』『ぐりとぐらのえんそく』『ぐりとぐらとくるりくら』『ぐりとぐらとすみれちゃん』などもあります）

『ぐるんぱのようちえん』

西内ミナミ／作 堀内誠一／絵 福音館書店 2008年

『三びきのやぎのがらがらどん』

北欧民話 マーシャ・ブラウン／絵 瀬田貞二／訳 福音館書店 1979年

『しょうぼうじどうしゃじふた』

渡辺茂男／作 山本忠敬／絵 福音館書店 2007年

『しんせつなともだち』

ファン・イーチュン／作 君島久子／訳  
村山知義／画 福音館書店 2007年

『はけたよはけたよ』

神沢利子／文 西巻茅子／絵 偕成社 1979年

『はなをくんくん』

ルース・クラウス／文 マーク・サイモント／絵  
木島始／訳 福音館書店 1967

『はらぺこあおむし』

エリック・カール／作 森比左志／訳 偕成社 1976年



『みんなうち』 五味太郎／作 福音館書店 1992年

『もりのなか』

マリー・ホール・エッツ／文・絵 まさきりこ／訳  
福音館書店 1980年

『ラチとらいおん』

マレーク・ベロニカ／文・絵 徳永康元／訳 福音館書店 1965年

『りんごのき』

エドアルド・ペチシカ／文 ヘレナ・ズマトリーカバー／絵  
内田莉莎子／訳 福音館書店 1972年

『わたしとあそんで』

マリー・ホール・エッツ／文・絵 与田準一／訳 福音館書店 1980年

『わたしのワンピース』 にしまきかやこ／絵・文 こぐま社 1969年

読み聞かせ

Q&A

☆特定の本（車の本、図鑑など）やアニメの本ばかり  
見ているので他の本も見たいのですが…

子どもたちは、好きな本を満足するまで読み続けます。「この本、この間も読んだから違う本にしたら？」などと言わず、お気に入りの一冊を大切に、気のすむまで読ませてあげましょう。その他にも別の楽しい世界があることを折にふれて教えたり、「私（親）の好きな本はこれ」と言って物語など別の本を子どもに読み聞かせをしていくとよいでしょう。

☆同じ本の同じページを読みたがり、いつも数ページ飛ばして同じページから見始めます。それでよいのでしょうか。

楽しいことやおもしろいことは何度でも味わいたいものです。気のすむまでその要求は満たしてやってください。好きな絵のページがあれば、子どもが堪能するまで楽しませ、ページをめくっていく展開の楽しさは少しずつ時間をかけて教えていきましょう。

4~5歳  
から

ユーモアあふれる、奇想天外なお話も楽しめるようになります。

## 『だいくとおにろく』

松居直／再話 赤羽末吉／画  
福音館書店 2007年

川に橋をかけることを頼まれた大工。川へ行くと鬼があらわれて、目玉をよこせば代わりに橋をかけてやるといいます。大工が困っていると、次の日にはもう橋ができていました。さあ目玉をよこせと鬼。大工が待ってくれというと、鬼は俺の名前を当てたら許してやるといいます。大工と鬼のやりとりがたのしく、日本の伝統的な絵が美しい昔話絵本です。



## 『100まんびきのねこ』

ワンダ・ガアグ／文・絵 石井桃子／訳  
福音館書店 1961年

あるところに、おじいさんとおばあさんがすてきな家に住んでいました。でも二人はとてもさびしくて、幸せではありませんでした。ねこが欲しいと言うおばあさんのために、おじいさんはねこを探しに出かけました。しばらく行くと、どこもかしこもねこだらけの丘！ おじいさんは1ぴきだけ連れて帰るつもりが… 驚きの展開が子どもたちを引きつけます。



 **ほかにもこんな絵本があります** 

『**おかあさんだいすき**』

マージョリー・フラック／文・絵 光吉夏弥／訳・編 岩波書店 1983年

『**おしゃべりなたまごやき**』

寺村輝夫／作 長新太／画 福音館書店 1972年

(『ぞうのたまごのたまごやき』もあります)

『**げんきなマドレーヌ**』

ルドウィッヒ・ベームルマンズ／作・画 瀬田貞二／訳 福音館書店 1972年

(マドレーヌといたずらっこ』『マドレーヌといぬ』『マドレーヌのクリスマス』  
などもあります)

『**だるまちゃんとてんぐちゃん**』

加古里子／作・絵 福音館書店 2008年

『**たんじょうび**』

ハンス・フィッシャー／文・絵 大塚勇三／訳 福音館書店 1979年

(この絵本から生まれた『こねこのぴっち』岩波書店もあります)

『**どろんこハリー**』

ジーン・ジオン／文 マーガレット・ブロイ・グレアム／絵 渡辺茂男／訳  
福音館書店 1964年

(『ハリーのセーター』『うみべのハリー』もあります)

『**ピーターラビットのおはなし**』

ビアトリクス・ポター／文・絵 石井桃子／訳 福音館書店 2019年

『**ひとまねこざるときいろいろし**』

ハンス・アウグスト・レイ&マーグレット・レイ／文・絵 光吉夏弥／訳  
岩波書店 1998年

(『おさるのジョージ』シリーズもあります)

『**ふしぎなたけのこ**』

松野正子／作 瀬川康男／絵 福音館書店 2008年

『**ももたろう**』

松居直／文 赤羽末吉／絵 福音館書店 1980年

『**ロージーのおさんぽ**』

パット・ハッチンス／作 渡辺茂男／訳 偕成社 2003年

5~6歳  
から

想像力が豊かになり、主人公になりきるだけでなく、「ぼくだったらこうしたい」と想像し、主人公以外にも思いをめぐらせるようにもなります。

## 『ちいさいおうち』

バージニア・リー・バートン／文・絵 石井桃子／訳  
岩波書店 2001年

昔、自然が美しく静かな田舎に小さいおうちがありました。時代が変わるにつれ、小さいおうちの周囲は変わっていきます。自動車が走るようになり、大きな建物ができて田舎は街になり、たくさんの人がやってきて…。そしてある日、小さいおうちはまた静かな場所に移築されます。季節や時代の移り変わりを鮮やかに描いた作品です。



## 『どろんここぶた』

アーノルド・ローベル／作 岸田衿子／訳  
文化出版局 1978年

お百姓の家に飼われているこぶたは、やわらかい泥んこの中に、座ったまま沈んでいくことが何よりも大好き。でもある日、おばさんが家中きれいに掃除をして、こぶたの大好きなどろんこも掃除してしまいました！ どろんこがなくなったこぶたは怒ってしまい、家出しますが…。こぶたが直面する危機には、読み手も途方に暮れてしまいます。



## 『やこうれっしゃ』

西村繁男／作 福音館書店 2012年

これは上野から金沢に向かう夜行列車の様子を描いた絵本です。出発前の駅の光景、そして到着するまでの人々の様子がとても丁寧に描写されています。故郷に帰る家族、スキーに出かける若者、案内をする駅員…。この絵本に文字はありません。しかし絵が多くを物語ってくれます。親子で会話をしながら読むのに最適の絵本です。



## 📖 ほかにもこんな絵本があります 📖

### 『イエペはぼうしがだいすき』

石亀泰郎／写真 文化出版局編集部／文 文化出版局 1979年

### 『海べのあさ』

ロバート・マックロスキー／文・絵 石井桃子／訳 岩波書店 1979年

### 『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック／作 神宮輝夫／訳 富山房 1975年

### 『木はいいなあ』

ジャニス・メイ・ユードリイ／作 マーク・シーモント／絵  
西園寺祥子／訳 偕成社 1990年

### 『くわずにようぼう』

稲田和子／再話 赤羽末吉／絵 福音館書店 1980年

### 『たんぼぼ』

平山和子／文・絵 北村四郎／監修 福音館書店 1992年

### 『チムとゆうかんなせんちょうさん』

エドワード・アーティゾーニ／文・絵 瀬田貞二／訳 福音館書店 2001年

### 『はなのすきなうし』

マンロー・リーフ／文 ロバート・ローソン／絵  
光吉夏弥／訳 岩波書店 1980年

### 『ピーターのくちぶえ』

エズラ・ジャック・キーツ／作・絵 木島始／訳 偕成社 1974年

### 『ふしぎなたいこ』

石井桃子／文 清水崑／絵 岩波書店 1975年

### 『ペレのあたらしいふく』

エルサ・ベスコフ／作・絵 おのぞらゆりこ／訳 福音館書店 1978年

### 『やまなしもぎ』

平野直／再話 太田大八／画 福音館書店 1978年

就学前後から  
絵本

次第に文字のある本に触れる機会もふえ、物語を絵でたどることから、文字でたどる力が必要になってきます。読み聞かせだけでなく、自分で読むこともできる、少しボリュームのある絵本を紹介します。

## 『ふくろうくん』

アーノルド・ローベル／作 三木卓／訳  
文化出版局 1976年

ふくろうが家の暖炉のそばに座っていると、玄関で大きな音がしました。どうやら、ふゆが玄関のドアをたたいていたようです。ふゆもきっと暖炉のそばに座りたいんだと思ったふくろうは、ドアを開けてふゆを家に入れてあげることになりましたが…。ひとり暮らしのふくろうくんの日常を描いた、すこしおかしくてほのぼのとした5つの短編が入った作品です。



## 『やまなし』

宮沢賢治／作 川上和生／絵  
三起商行 2006年

「クラムボンはわらったよ」「クラムボンはかぷかぷわらったよ」2匹の蟹の子どもたちが、青白い水の底で話していました…。水底の光景の美しさや会話の中に出てくる不思議な響きが魅力です。意味の難しい言葉が出てきたら、子どもと一緒に調べてみたり、どんなものなのかを想像してみましょう。是非、親子で読んでほしい作品です。



## 『おいしいのぼうけん』

ふるたたるひ／作 たばたせいいち／絵  
童心社 1980年

真っ暗で、こわいおいしいれ。さくらほいくえんの水野先生は、給食や昼寝のときに、しかられても静かにしない子がいると、このおいしいれに入れてしまいます。ある日のこと、あきらとさとしはお昼寝の前にあかいミニカーであそぶのをやめなかったで、おいしいれに入れられてしまいました。おいしいれのなかでふたりが出会ったのは…。ドキドキわくわくするロングセラーのおはなしです。



### ほかにこんな絵本があります

#### 『ものぐさトミー』

ペーン・デュボア／文・絵 松岡享子／訳 岩波書店 1977年

#### 『あらしのよるに』

木村裕一／作 あべ弘士／絵 講談社 2002年

#### 『としょかんライオン』

ミシェル・ヌードセン／作 ケビン・ホークス／絵  
福本友美子／訳 岩崎書店 2007年

#### 『ふたりはともだち』

アーノルド・ローベル／作 三木卓／訳 文化出版局 1978年

#### 『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ウィリアム・スタイグ／作 せたていじ／訳 評論社 2006年

## 就学前後から よみもの

1冊の本を最後まで読みきれたという自信は次の本を読む意欲につながります。初めてのよみものとしておすすめしたい物語を紹介します。

### 『ごきげんなすてご』

いとうひろし／作 徳間書店 1995年

お父さん、お母さん、女の子の3人家族のおうちに、3か月前に弟がやってきました。お母さんは弟ばかりかわいがるので女の子はおもしろくありません。そこで、すてごになって、もっとすてきなおうちにもらえるために家出をします。家出をした女の子は、動物たちと出会い、すてごなかまになります。お姉さんになる女の子を両親や動物たちとの楽しいやりとりをまじえながら描いています。



### 『わかったさんのクッキー』

寺村輝夫／作 永井郁子／絵 あかね書房 1987年

クリーニング屋のわかったさんはクリーニングした洋服を届けるのがお仕事。ある日、新しくクリーニングを頼まれた洋服の中から、誰のものか分からない鍵が出てきました。「ちゃんとお返ししてこい!」とおとうさんに叱られ、わかったさんはお客さんを一人ひとりたずねることになったのですが…。おかしな世界に迷いこんだわかったさんがクッキーの作り方を学んでいく、ふしぎで楽しいお話です。



### 『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー／作 松岡享子／訳  
大社玲子／絵 福音館書店 1992年

ねずみヤカちゃんは「やかましやのヤカちゃん」と呼ばれていました。いっしょにくらしているほかの兄弟子ねずみはおとなしくて、静かな子でしたが、ヤカちゃんはとても大きな声をたてるからです。では、「番ねずみ」とはいったいなんのことなのでしょう？不思議に思ったらぜひ手に取ってみてください。きっとそのこたえがみつかりますよ。





 **ほかにもこんな絵本があります** 

『エルマーのぼうけん』

ルース・スタイルス・ガネット／作 ルース・クリスマン・ガネット／絵  
わたなべしげお／訳 福音館書店 2010年

『たんたのたんけん』

中川李枝子／作 山脇百合子／絵 学習研究社 1978年

『きつねのでんわボックス』

戸田和代／作 たかすかずみ／絵 金の星社 1996年

『おすのつぼにすんでいたおばあさん』

ルーマー・ゴッデン／文 なががわちひろ／訳・絵 徳間書店 2001年

『なぞなぞのすきな女の子』

松岡享子／作 大社玲子／絵 学習研究社 1978年

『ももいろのきりん』

中川李枝子／著 中川宗弥／絵 福音館書店 2001年

『ネコのタクシー』

南部和也／作 さとうあや／絵 福音館書店 2001年

『おともださにナリマ小』

たかどのほうこ／作 にしむらあつこ／絵 フレーベル館 2005年

『ぺちゃんこスタンレー』

ジェフ・ブラウン／文 トミー・ウンゲラー／絵  
さくまゆみこ／訳 あすなる書房 1998年

『ジェインのもうふ』

アーサー・ミラー／作 アル・パーカー／絵  
くわがわ  
厨川圭子／訳 偕成社 1977年

『くまの子ウーフ』 神沢利子／作 ポプラ社 2001年

『はじめてのキャンプ』 林明子／作・絵 福音館書店 1984年

『もりのへなそうる』

わたなべしげお／作 やまわきゆりこ／絵 福音館書店 1980年

(ここに紹介した絵本の出版年は、岐阜県図書館が所蔵するなかで、最も新しい版の出版年としました)

# あなたのまちの図書館

市や町の図書館では、皆さんのお探ししている本やお求めの本をお届けできるよう日々努めています。また、絵本の読み聞かせの会や子ども向けの楽しい行事を定期的で開催しています。お近くの図書館をぜひご利用ください。

## 岐阜地区

(岐阜県公共図書館協議会加盟館 令和4年4月1日現在)

館名	郵便番号	所在地	電話
岐阜県図書館	500-8368	岐阜市宇佐4-2-1	058-275-5111
岐阜市立図書館	500-8076	岐阜市司町40番地5	058-262-2924
分館	500-8521	岐阜市橋本町1丁目10番地23	058-268-1061
長良図書室	502-0829	岐阜市万代町2丁目5-1	058-233-8170
東部図書室	501-3134	岐阜市芥見4丁目80	058-241-2727
西部図書室	501-1172	岐阜市下鵜飼1丁目105	058-234-1633
長森図書室	500-8232	岐阜市前一色1丁目2-1	058-240-2702
柳津図書室	501-6180	岐阜市柳津町宮東1丁目1	058-388-2026
羽島市立図書館	501-6244	羽島市竹鼻町丸の内6丁目2番地	058-392-2270
各務原市立中央図書館	504-0911	各務原市那加門前町3丁目1番地3	058-383-1122
川島ほんの家	501-6022	各務原市川島松倉町1951番地4	0586-89-5610
中央ライフデザインセンター図書室	504-0813	各務原市蘇原中央町2丁目1番地8	058-383-2125
もりの本やさん・森の交流館	509-0111	各務原市鵜沼字石山6529番地2	058-370-7175
山県市図書館	501-2121	山県市大門850番地65	0581-36-3339
山県市高富中央公民館図書室	501-2114	山県市佐賀588番地2	0581-22-3351
山県みやまジョイフル倶楽部図書室	501-2314	山県市笹賀197番地	0581-55-2608
瑞穂市図書館	501-0224	瑞穂市稲里28番地1	058-326-2300
瑞穂市図書館分館	501-0305	瑞穂市宮田304番地2	058-328-7070
しんせいほんの森	501-0465	本巣市軽海424番地	058-323-5757

本巣公民館図書室	501-1292	本巣市文殊324番地	0581-34-5029
糸貫公民館図書室	501-0406	本巣市三橋1101番地6	058-323-7765
根尾公民館図書室	501-1524	本巣市根尾板所625番地1	0581-38-2515
岐南町図書館	501-6013	羽島郡岐南町平成7丁目38番地	058-247-7737
北方町立図書館	501-0431	本巣郡北方町北方1816番地4	058-323-3155
笠松中央公民館図書室	501-6083	羽島郡笠松町常磐町6番地	058-388-3231

## 西濃地区

館名	郵便番号	所在地	電話
大垣市立図書館	503-0911	大垣市室本町5-51	0584-78-2622
大垣市立上石津図書館	503-1622	大垣市上石津町上原1400	0584-45-3118
大垣市立墨俣図書館	503-0103	大垣市墨俣町上宿510-1(さくら会館2階)	0584-62-3900
海津市海津図書館	503-0654	海津市海津町高須605番地	0584-53-1515
養老町図書館	503-1251	養老郡養老町石畑483-2	0584-33-0215
タライピアセンター図書館	503-2121	不破郡垂井町2443-1	0584-23-3746
関ヶ原ふれあいセンターふれあい図書館	503-1521	不破郡関ヶ原町大字関ヶ原894-29	0584-43-2233
神戸町立図書館	503-2306	安八郡神戸町北一色821番地の1	0584-27-9866
輪之内町立図書館	503-0212	安八郡輪之内町中郷新田1495	0584-69-4500
ハートピア安八図書館	503-0198	安八郡安八町氷取30番地	0584-63-1515
揖斐川町立揖斐川図書館	501-0603	揖斐郡揖斐川町上南方27番地9	0585-22-0219
揖斐川町立谷汲図書館	501-1392	揖斐郡揖斐川町谷汲名礼264-22	0585-56-3733
揖斐川町立坂内図書館	501-0902	揖斐郡揖斐川町坂内広瀬166-2	0585-53-3860
大野町立図書館	501-0521	揖斐郡大野町黒野990	0585-32-1113
池田町図書館	503-2425	揖斐郡池田町六之井1541番地の1	0585-45-6222

## 美濃地区

館名	郵便番号	所在地	電話
関市立図書館	501-3802	関市若草通2丁目1番地	0575-24-2529
関市立図書館武芸川分館	501-2602	関市武芸川町小知野779-1	0575-46-3611

関市立図書館武儀分館	501-3501	関市富之保2001-1	0575-49-3715
関市立図書館洞戸分室	501-2812	関市洞戸市場294-2	0581-58-2115
関市立図書館板取分室	501-2921	関市板取1634	0581-57-2220
関市立図書館上之保分室	501-3601	関市上之保15110-1	0575-47-2500
美濃市図書館	501-3701	美濃市殿町1571-2	0575-35-2280
郡上市図書館	501-5121	郡上市白鳥町白鳥359-26	0575-82-6006
郡上市図書館はちまん分館	501-4222	郡上市八幡町島谷207-1	0575-65-6769
郡上市図書館やまと分室	501-4612	郡上市大和町剣1	0575-88-3381
郡上市図書館たかす分室	501-5303	郡上市高鷲町大鷲201-2	0575-72-5076
郡上市図書館みなみ分室	501-4106	郡上市美並町白山430-4	0575-79-3700
郡上市図書館めいほう分室	501-4307	郡上市明宝二間手532	0575-87-2016
郡上市図書館わら分室	501-4517	郡上市和良町沢677-1	0575-77-2724

## 可茂地区

館名	郵便番号	所在地	電話
美濃加茂市中央図書館	505-0041	美濃加茂市太田町1921-1	0574-25-7316
東図書館	505-0027	美濃加茂市本郷町9-2-22	0574-26-3001
美濃加茂市北部分室	505-0002	美濃加茂市三和町川浦2565(三和ふれあいセンター内)	中央図書館へ
可児市立図書館 本館	509-0214	可児市広見570番地5	0574-62-5120
可児市立図書館 帷子分館	509-0256	可児市東帷子1011番地	0574-65-8530
桜ヶ丘分館	509-0236	可児市皐ヶ丘6丁目1番地1	0574-64-3473
中山道みたけ館	505-0116	可児郡御嵩町御嵩1389-1	0574-67-7500
美濃白川楽集館	509-1105	加茂郡白川町河岐1728	0574-74-1022

## 東濃地区

館名	郵便番号	所在地	電話
多治見市図書館	507-0034	多治見市豊岡町1-55	0572-22-1047
笠原分館	507-0901	多治見市笠原町2081-1	0572-43-5157
子ども情報センター	507-0843	多治見市常磐町1	0572-25-0341
中津川市立図書館	508-0041	中津川市本町2-3-25	0573-66-1308

中津川市立蛭川済美図書館	509-8301	中津川市蛭川2178-2	0573-45-2211
山口公民館図書室	508-0501	中津川市山口1616-3	0573-75-2126
福岡公民館図書室	508-0203	中津川市福岡716-2	0573-72-2144
加子母公民館図書室	508-0494	中津川市加子母3519-2	0573-79-2111
川上公民館図書室	509-9201	中津川市川上1427-6	0573-74-2111
付知公民館図書室	508-0351	中津川市付知町4956-43	0573-82-3023
坂下公民館図書室	509-9232	中津川市坂下820-1	0573-75-3115
瑞浪市民図書館	509-6101	瑞浪市土岐町7267-4	0572-68-5529
恵那市中央図書館	509-7205	恵那市長島町中野2丁目2番地5	0573-25-5120
土岐市図書館	509-5122	土岐市土岐津町土岐口2154-9	0572-55-1253

## 飛騨地区

館名	郵便番号	所在地	電話
高山市図書館	506-0838	高山市馬場町2-115	0577-32-3096
丹生川分館	506-2121	高山市丹生川町坊方2000丹生川支所内	0577-78-1111
清見分館	506-0102	高山市清見町三日町305きよみ館内	0577-68-2211
荘川分館	501-5413	高山市荘川町新洲430-1荘川総合センター内	05769-2-2211
一之宮分館	509-3505	高山市一之宮町3095飛騨位山文化交流館内	0577-53-0035
久々野分館	509-3205	高山市久々野町久々野1505-4久々野公民館内	0577-52-3112
朝日分館	509-3325	高山市朝日町万石800燦燦朝日館内	0577-55-3311
高根分館	509-3411	高山市高根町上ヶ洞428高根支所内	0577-59-2211
国府分館	509-4119	高山市国府町広瀬町880-1こくふ交流センター内	0577-72-3111
上宝分館	506-1317	高山市上宝町本郷540上宝支所内	0578-86-2111
飛騨市図書館	509-4292	飛騨市古川町本町2-22	0577-73-5600
飛騨市神岡図書館	506-1111	飛騨市神岡町東町378	0578-82-1764
下呂市はぎわら図書館	509-2517	下呂市萩原町萩原1166-8	0576-52-2901
小坂図書室	509-3104	下呂市小坂町小坂町815-5	0576-62-3111
下呂図書館	509-2202	下呂市森801-10	0576-25-2489
金山図書館	509-1622	下呂市金山町金山2294	0576-32-4009
馬瀬移動図書室	509-2612	下呂市馬瀬名丸406	



# 岐阜の子どもの本に関する取り組み

## 岐阜県子どもの読書活動推進計画（第四次）について

「岐阜県子どもの読書活動推進計画（第四次）」は、平成13年に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」及び、平成30年に策定された国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」に基づく、子どもの読書活動の推進に関する計画です。

この計画は、平成31年に作成された「第3次岐阜県教育ビジョン」を踏まえ、読書活動という視点から、子どもたちが自立し、人生をより深く生きていく力を身に付けることができるように岐阜県が取り組みました。

この計画では、① 本との出会いの提供、② 楽しみながら進める読書の習慣化、③ 本から学ぶ力の育成、④ 読書から生まれた自分の考えを表現する機会の提供、⑤ 特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進 を目指しています。





## 岐阜県図書館における子どもの本のサービス

岐阜県図書館には、子どもの本に関するコーナーが二つあります。

一つ目は児童コーナーです。子どもから大人まで、どなたでも自由にご覧になり、自由に本を選ぶことができます。楽しい絵本や調べ学習の参考になる児童書をそろえるよう努めています。

二つ目は児童図書研究室です。1972年以来、「子どもと本との出会い」の大切さを多くの方々に知っていただくために、より豊かな子どもの読書環境作りに生かせる資料を収集・保存し、提供しています。各地域で子どもの読書活動を推進している公立図書館、学校図書館、地域の大人の皆さんを支援し、岐阜県全体の子どもの読書活動の推進を目指します。

窓口で、子どもの本に関する調べものをうかがっています。県内の市町村図書館でも、同じように調べもののお手伝いをしており、所蔵している本だけでは解決できない場合は、市町村図書館から岐阜県図書館に貸出や調査の申し込みがあります。何か知りたいことや調べものがありましたら、当館または地元の図書館にお気軽にお尋ねください。

読み聞かせ

Q&A

☆何歳まで読んでやればよいですか

「読んで」と言ってくる間はずっと読んであげてください。絵本は自分ひとりで読んでももちろん楽しめますが、基本的には読んでもらって楽しむものです。もし小学生のお子さんが「読んで」と本を持ってきたときは、「もう字が読めるんだから自分で読みなさい」なんて言わないでくださいね。



## 岐阜県図書館の利用案内

### 開館時間

平日 10:00～20:00

土日祝 10:00～18:00

### 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

毎月最終金曜日（祝日の場合は前日）

年末年始、図書総点検期間等



### 交通案内

◎JR西岐阜駅(南口)より

- ・「西ぎふ・くるくるバス」『県図書館・美術館』バス停下車すぐ
- ・徒歩14分

◎名鉄岐阜駅・JR岐阜駅より

- ・岐阜バス「鏡島市橋線」「市橋」行に乗車、  
『県美術館』バス停下車 徒歩3分
- ・岐阜バス「加納島線」「OKBふれあい会館」行に乗車、  
『江添』バス停下車 徒歩10分



## 「魔法の扉を開いてみませんか？」

発行年月 令和5年3月 編集・発行 岐阜県図書館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1

電話 058-275-5111 FAX 058-275-5115

URL <https://www.library.pref.gifu.lg.jp/>

岐阜県図書館

検索

